

小田原市教育委員会協議会会議録

1 日時 平成20年11月20日(木) 午後7時53分～午後8時5分

場所 小田原市役所601会議室

2 出席した教育委員の氏名

1番委員 山田浩子

2番委員 青木秀夫 (教育長)

3番委員 桑原妙子 (教育委員長職務代理者)

4番委員 和田重宏 (教育委員長)

5番委員 山口潤

3 説明等のため出席した教育委員会職員の氏名

教育政策課長 曾我勉

学校教育課長 柳下正祐

課長補佐・学事担当主査事務取扱 栢沼一郎

課長補佐兼指導主事・指導担当主査事務取扱 長澤貴

(事務局)

教育政策課課長補佐・教育政策担当主査事務取扱 座間亮

教育政策課上級主査 望月啓一郎

4 議事

(1) 報告事項

① 小田原市学区審議会からの答申について(学校教育課)

② 平成21年度公立幼稚園新入園児応募状況について(学校教育課)

5 議事の概要

(1) 報告事項

① 小田原市学区審議会からの答申について(学校教育課)

学校教育課長…報告事項「片浦地区の中学校区のあり方について」御報告させていただ

きます。資料1をご覧ください。このことは、随時、これまでの定例会でご審議いただいたり、協議会でご報告させていただいたりしてきました。今回は、本教育委員会から小田原市学区審議会に対して諮問いたしました「片浦地区の中学校区のあり方について」、11月13日付で、小田原市学区審議会から本教育委員会に対して、答申書が提出されましたので、そのご報告をいたします。

小田原市学区審議会では、「片浦地区の中学校区の変更について」「指定変更許可基準の見直しについて」、この2点について、10月から計3回にわたり審議していただきました。審議の結果、「平成22年3月に小田原市立片浦中学校が閉校した際、統合先を小田原市立城山中学校とする。これに伴い、片浦地区の中学校区を城山中学校区に統合すること」および「片浦中学校の閉校に伴う経過措置として、平成21年度に、就学すべき学校を片浦中学校から城山中学校に変更できるよう指定変更許可基準に追加すること」は、適当であるとの結論に達しました。また、審議において学校統合に伴う付帯意見・要望が出されました。片浦地区の子どもたちが来年4月1日以降、安心して教育を受けられるように、「通学保障」を含めた具体的な方策や細部にわたる適切な対応を実施するよう、教育委員会に期待するとし、強く要望すると付記されております。本教育委員会といたしましては、小田原市学区審議会から提出されました本答申書の内容ならびに審議会の中でいただきました意見や要望を真摯に受け止め、「片浦地区の中学校区のあり方について」、片浦地区の子どもたちが来年4月1日以降、安心して教育を受けられるよう、適切な対応を検討していきたいと考えております。今後のスケジュールといたしましては、前回の定例会でご審議いただきました「小田原市立学校条例の一部を改正する条例」が12月11日の市議会12月定例会で可決され「平成22年3月31日をもって、小田原市立片浦中学校を閉校とすること」が決定いたしましたら、次の12月の教育委員会定例会において、本日報告いたしました答申内容について、具体的にご審議いただくことになっております。以上でございます。

(質 疑)

和田委員長…生徒は電車通学になるのでしょうか。

学校教育課長…今、いろいろ検討しております。地区が4つありまして、バスの方が良いような場合などがありますので、細かく検討していきたいと考えています。

和田委員長…電車はよく強風で止まりますからね。

青木教育長…江之浦と石橋など事情が違います。石橋は早川に近く、バスで行けるでしょうが、江之浦からではバス代が高いでしょうね。

桑原委員…通学保障というのは、経費を負担してほしいということでしょうか。

学校教育課長…通学費を出してほしいということです。

山田委員…バスか電車を選ぶというのではなく、どちらかに統一するというのでしょうか。

学校教育課長…そこは難しいところです。箱根町の場合、会社が同じなのでバスか電車を選べるようになっていますが、片浦の場合は事情が違います。

(その他質疑・応答なし)

② 平成21年度公立幼稚園新入園児応募状況について (学校教育課)

学校教育課長補佐・学事担当主査事務取扱…報告事項「平成21年度公立幼稚園新入園児応募状況について」御報告させていただきます。資料2をご覧ください。

平成21年度の新入園児の募集につきましては、去る10月15日から22日までの1週間入園願書の配布を各幼稚園で行いました。その結果、268人の方に配布させていただきました。また、11月1日及び2日の両日にわたりまして、入園希望者の受付をいたしましたところ、268人の願書配布に対しまして、243人の入園申込みをいただきました。これにより平成21年度の公立幼稚園6園の園児見込み数は、総定員770名に対しまして517名、率にいたしますと67.14%となります。なお、報徳幼稚園につきましては、願書の配布数は44人でしたが、39人の方が入園申込みをされ、11月3日に抽選を行い決定させていただきました。下段の表でございまして、参考資料といたしまして、平成19年度以降の各公立幼稚園ごとの願書配布数、入園数及び入園者の割合の推移を表したものでございます。以上でございます。

(質 疑)

桑原委員…抽選に漏れた方への対応はありますか。

課長補佐…私立幼稚園あるいは保育園に応募していただく形になります。

桑原委員…経済的にだいぶ違うのでしょうか。これはもう運ということでしょうか。

課長補佐…4年程前には6園のうち3園で抽選となったこともあります。今回は4名の方が漏れたわけですが、自ら抽選をしていただいたことで、納得していただいているかなとは思っております。ただ、入園辞退があった場合は、繰上げ措置を取っておりまして、現在のところ、3名の方が待機中という状況でございます。

山田委員…前羽幼稚園の入園予定数は非常に少ないですが、こういった原因があるのでしょうか。

課長補佐…もともと区域内の子どもの絶対数が少なくなっております。下段の表のとおり、平成21年度では、区域の対象年齢者数は26人で、入園者数が9人となっております。また、保護者の就労状況によって、保育園に預けたり、二宮の幼稚園に行かせたりということがございます。

桑原委員…卒園式にうかがったことありますが、確かにもともと子どもの数が少ないです。また、区域内にマンションができましたが、入居者には子どもがいないようです。

課長補佐…そのマンションは、年齢条件があり、子どもを持つような若い年代層が入居できないようです。

桑原委員…二宮の幼稚園に行っている場合が多いようですね。

課長補佐…そのとおりです。

(その他質疑・応答なし・協議会を終了)